日本 ESP 協会の活動

Activity of Japan Association of English for Specific Purposes

田 中 慎 也^{※1}

Shinya TANAKA

本協会設立準備は、2002年6月に大学基準協会の早田幸政氏（当時大学評価研究部長）が、国際的な大学の「質保証」問題と英語力強化策を思案されておられた原田耕作氏（当時日本技術者教育認定機構専務理事）を、田中慎也（当時桜美林大学言語教育研究所所長：大綱化の折に文部省から大学英語教育学会が2回ヒアリングを受けた折に意見書を纏めた責任者）に引き合わせを頂いた所から始まりました。

まず、「国際的に通用する各分野の専門家のコミュニケーションの手段としての英語力育成・教育のあり方を考える」という趣旨に賛同した有志により2002年7月に「仕事が出来る英語力を考える会」を発足させ、理工系、医学系、農水系、経商系、法学系の各分野について検討することとし、その中で日本技術者教育認定機構（JABEE：The Japan Accreditation Board for Engineering Education）の基準である「国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」の達成手段としての英語教育のあり方や文科省が2003年3月に発表した「英語が使える日本人」の育成のための行動計画等を27回の会議で検討し、2006年8月27日の会議で、日本ESP協会（The Japan Association of English for Specific Purposes：JAESP）設立を決定致しました。従いまして本協会はまだ若い協会であります。

しかしながら、昨今の日本にとって「国際コミュニケーション能力の強化」は緊急課題の一つとなっております。

2007年5月10日の日本経済新聞に、スイスのローザンヌ市に本部を置く「経営開発国際研究所（IMD）」が発表した「2007年世界競争力年鑑」において、日本は前年のランク16位から24位に転落した事が報じられましたが、指標項目Educationの中のLanguage skillsの指標の低さがランクを下げた理由の一つに挙げられておりました。

今日世界の国際競争力の激化、国際ビジネス環境の多様化は一層激しくなっております。そのような状況の中で今後の日本の国際競争力を維持していくためには国際コミュニケーション能力、特に英語力強化は必須条件となっております。

従いまして、日本ESP協会は、国際コミュニケーション能力としての英語力強化を図って、日本の国際競争力を高め且つ国際社会のために大いなる幻とヴィジョンを持って活躍できる人材養成という目標を持った団体として、活動を継続していきたいと念じておりますが、現今の国際政治環境や国際ビジネス環境の多様化、日本離れの進展にも対応できる柔軟な国際コミュニケーション能力の育成にも努力、工夫を重ねたプログラム展開を図って行きたいと思っております。

具体的には、社会人と大学院生を対象とした「プロフェッショナル養成講座」の開催、コミュニケーション能力に関連したテーマの「月例懇話会」（年6回）、国際コミュニケーションに関連した「セミナー」の開催、「ニュース・レター」の発行、高等教育機関と企業と諸学協会とが連携した「資格認証制度」の検討等が2010年度の事業計画となる予定です。

これまでの活動状況としましては、2006年10月と2007年10月にそれぞれ第1回及び第2回の「ESPプロフェッショナル養成コース」を実施。刊行物として『ESP NEWS』No.1～No.6及び『JAESP PROCEEDINGS』の発刊、その他日本工学教育協会主催のワークショップ協賛、金沢大学でのセミナー共催、メディカル・ライター協会とのジョイントセミナーの開催、芝浦工業大学とのセミナー共催での講師派遣等となっております。

今後とも、日本の国際コミュニケーション能力の強化・振興に役立つ活動を一層推進してまいりたいと念じております。宜しくご支援の程お願い申し上げます。